

平成二十七年五月一日発行(毎月一回一日)
書 象 第六十三卷 第五号 通卷七二四号

書 象



日本書道芸術協会

2015-5

読売展を迎えるにあたって

副理事長 中村 巍 山

光陰矢のごとし、今年も書象展出品作品を終了し、四月も半ばとなりました。この夏は第三十二回の読売書法展「本格の輝き」が開催されます。皆さん早め早めの構想を練り上げて凜とした信山流を発表しましょう。

読売書法展は日展に続いて難関な書展です。制作には用意周到にして綿密な計画が必要です。作品の善し悪しは全体的に観て、布置、字形、線質、墨色などバランスがとれているかで決まります。

又、審査の方法も数千点の作品が対象です。それぞれ瞬間的に選別するので、より印象的な作品が求められます。更に推敲を重ねて練度の高い作品を出品しましょう。

それに対応するには、自分に合う作品を制作することが一番です。書象展のように会員同士の内輪の書展では、大胆かつ思い切った個性的な作品で刺激し合うのも効果的ですが、日本を代表する書展では規格や形式にかなう詩文や文字の選択も重要な要素になります。特に字句の内容に添うような字形や構成力、その上見せ場をアピールしてよりインパクトを持った作品が効果的でもあります。

今回展から公募に限り臨書の出品が認められました。会員の皆さんは、古典の九成宮、化度寺碑、張猛龍碑、集字聖教序、蘭亭叙、枯樹賦などを半紙で練習を重ねているので少々有利ではないでしょうか。

以前、上條先生はお稽古の度に唐時代迄の漢、北魏を中心に古典を一つ選び、隸、楷、行、草、仮名を研鑽して自分自身の作品にプラスになるよう教示されたことが脳裏に浮かびます。又、先生が推奨された臨書の方法は印象的、写實的臨書を經て、自分の主観の入った表現的臨書へと発展させることでした。私達会員は半紙はもとより自分の好みに合った字句や形式に挑み、小さな枠を破る位の勢いで作品を創り出したいものです。

昨今は社会的に高齢化が進んでいます。書道界も例外ではありません。出品者が年々減少しがちですが、その中であって信山流に魅せられた七十代、八十代の方々が一生懸命筆を走らせ学習に意欲を燃やされています。「書は一生の稽古なり」を身をもって示されている姿に敬服しています。

私もあつという間に古希を迎えました。格調高い信山流を微力ながら継承しようと改めて肝に銘じています。若い会員、永い会員が共に一丸となって協力して信山書法の発展に頑張っ参りましょう。

楷書臨書規定【臨規】（師範・準師範・段位）

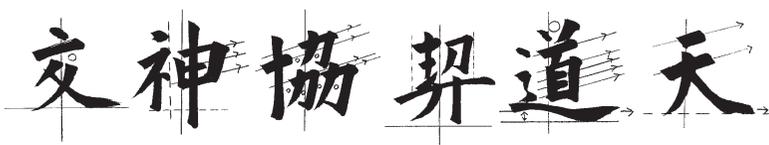
化度寺碑

上條信山先生書



天道。契協神交。

5月20日必着
出品券を貼付



・中心線を確認して書く。
・横画の平行をしつかり守り、文字の中の空間を美しく書く。
・右はらいはのびのびと水平にはらう。



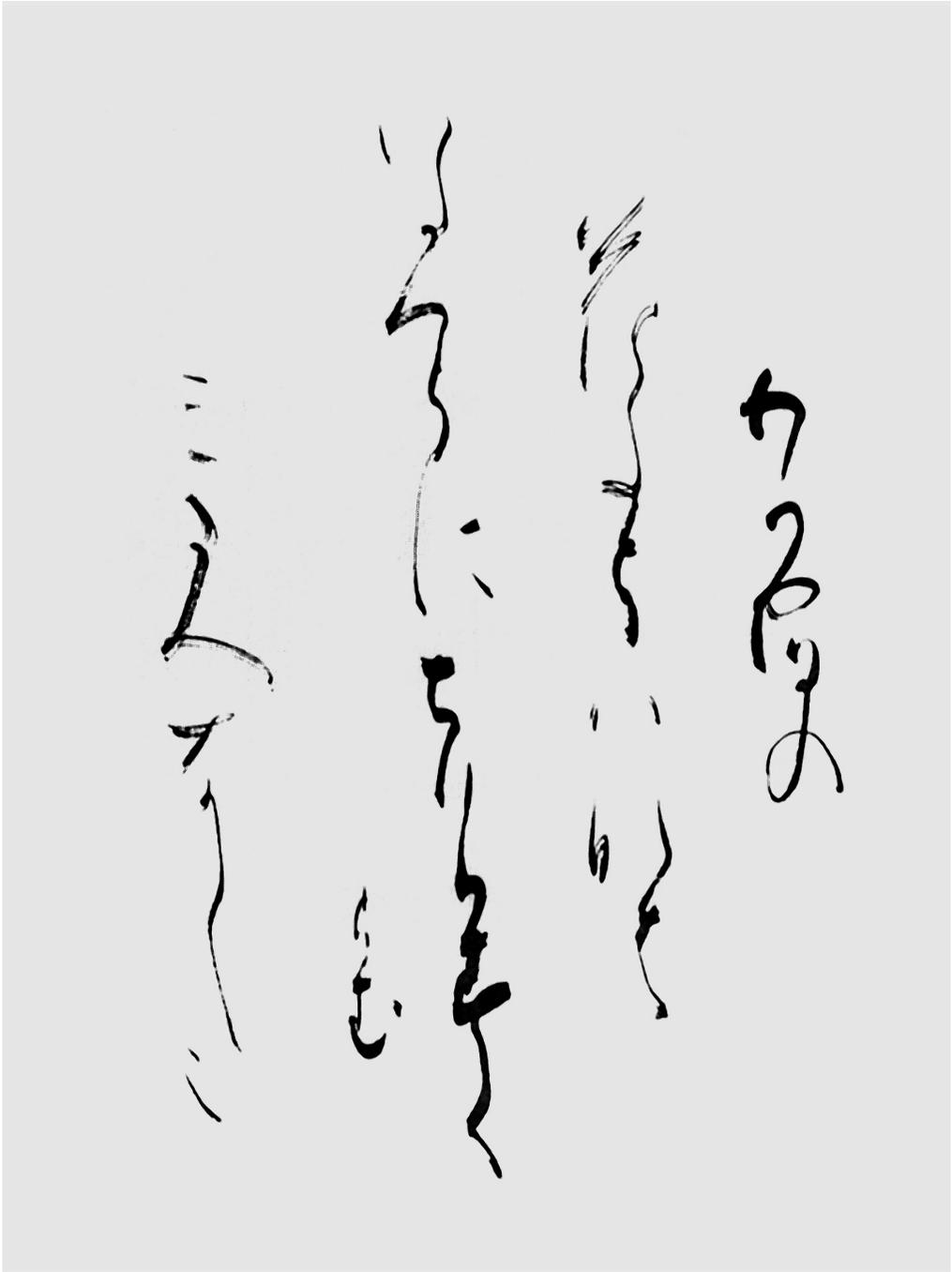
・横画、縦画、払い、
すべての線において
姿勢を正してしまい
そうな厳格さを覚え
ます。一点一画を丹
念に見つめ臨書しま
しょう。

教 | 偏と旁のバランス、
横画の長さ、払い
を美しく。



焉 | 横画を同方向に。





わが(可)宿の花た(多)ちば(八)な(那)は(者)いた(多)ぐらに
 ちりか(可)す(春)ぐらむみ(三)る人なしに(二)(万葉集)

5月20日必着
 出品券を貼付

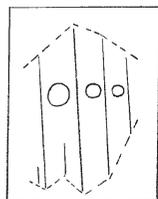
・第四句で墨つきをし、
 潤渴を工夫する。

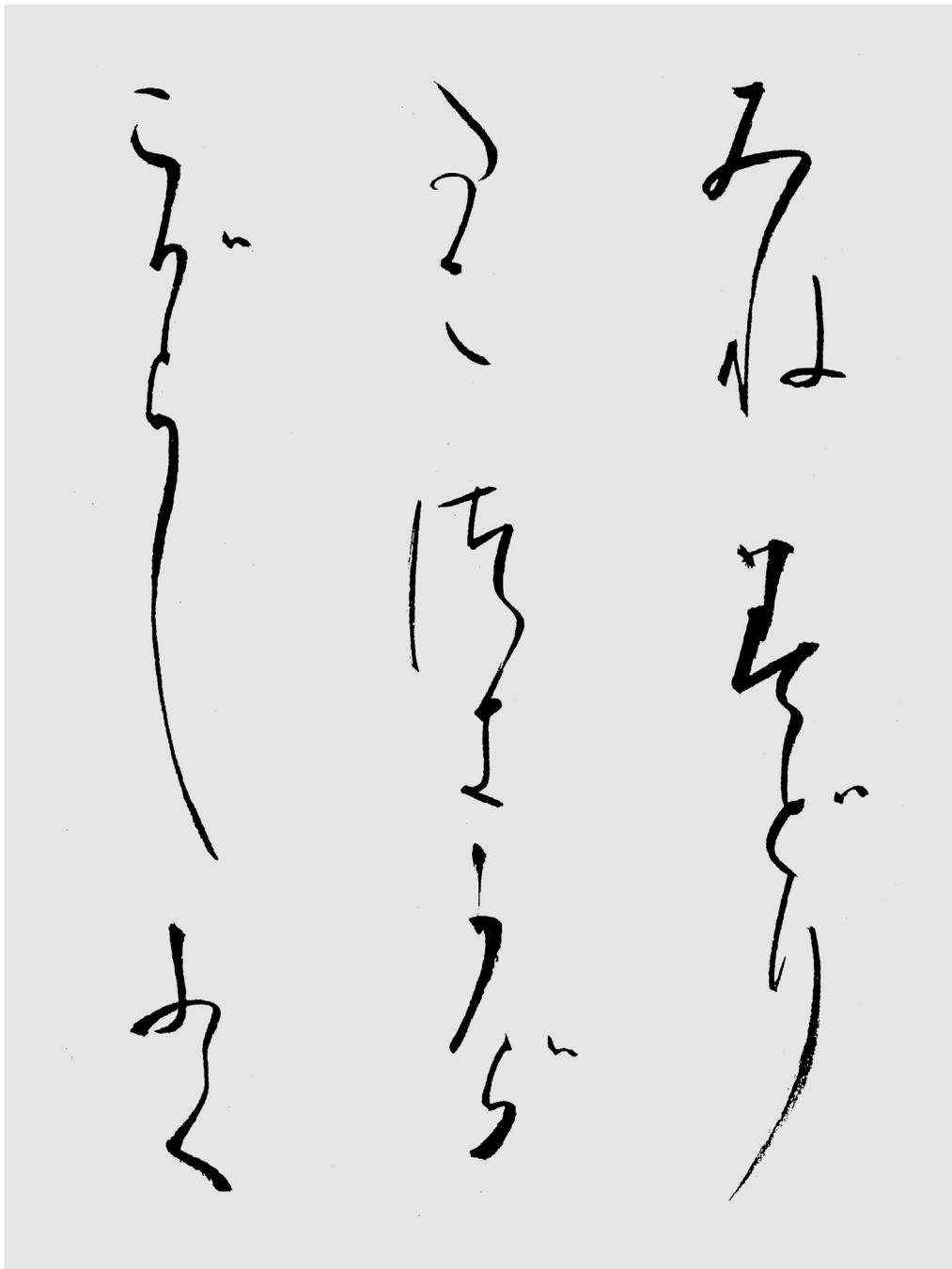
・中心線の位置をしっかりと把握する。

・中心線のとり方参照



・全体構成は左の通り





みね み(美)どり た(多)に(二) っ(徒)き(支)か(可)げ(介) こが(可)らし ふく

・みね

「み」終筆の払いを「ね」の縦画に続ける。

・み(美)どり



「美」は大きく。「り」は伸び伸びと。

・た(多)に(二)

「多」の入筆の角度をよく見る。

・っ(徒)き(支)か

(可)げ(介)



「徒」の中央部を広く。二字目から右へ。

・こが(可)らし

最後の「し」を伸び伸びと。

・ふく

やや小さめに。

研究【研究】

張猛龍碑

田中節山先生書

積石

積石

5月20日必着

出品券を貼付

入選作のみ発表します

〈ポイント〉
・横画の方向

積

偏は第二画を長く強調。旁は七本の横画を伸びやかに書く。

微妙な画の方向の違いも見抜いてほしい。

石

第二画の書き始めの位置と長さがこの字のポイント。口の横画の方向も把えたい。

低頭思故郷

竹山

頭を低^たれて故郷を思う

- ・しっかりと墨をつけて、伸びやかに書く。
- ・三つの右ハライの角度や運筆速度に変化がある。
- ・「低頭思故郷」はP14参照。

仮名条幅随意【条随】

上條信山先生書

入選作のみ発表します

出品券を貼付



春雨に(二)に(こ)ほ(本)へる色も(毛)あか(可)な(那)くに(二)香さへ(遍)なつ(徒)か(可)し山吹の花
(齋藤茂吉)

- ・筆の開閉の変化が激しい作。特に連綿部分は字形を熟知して一気に書き進めるようにしたい。
- ・「へ(遍)」「つ(徒)か(可)し」「山吹」はP14参照。

木回
馬車

中学一年規定 【学毛】

樋口玄山先生書

精自
神律

中学二・三年規定 【学毛】

高田墨山先生書

田母
心志

小学五年规定 【学毛】

小渊石峯先生書

朝光
日る

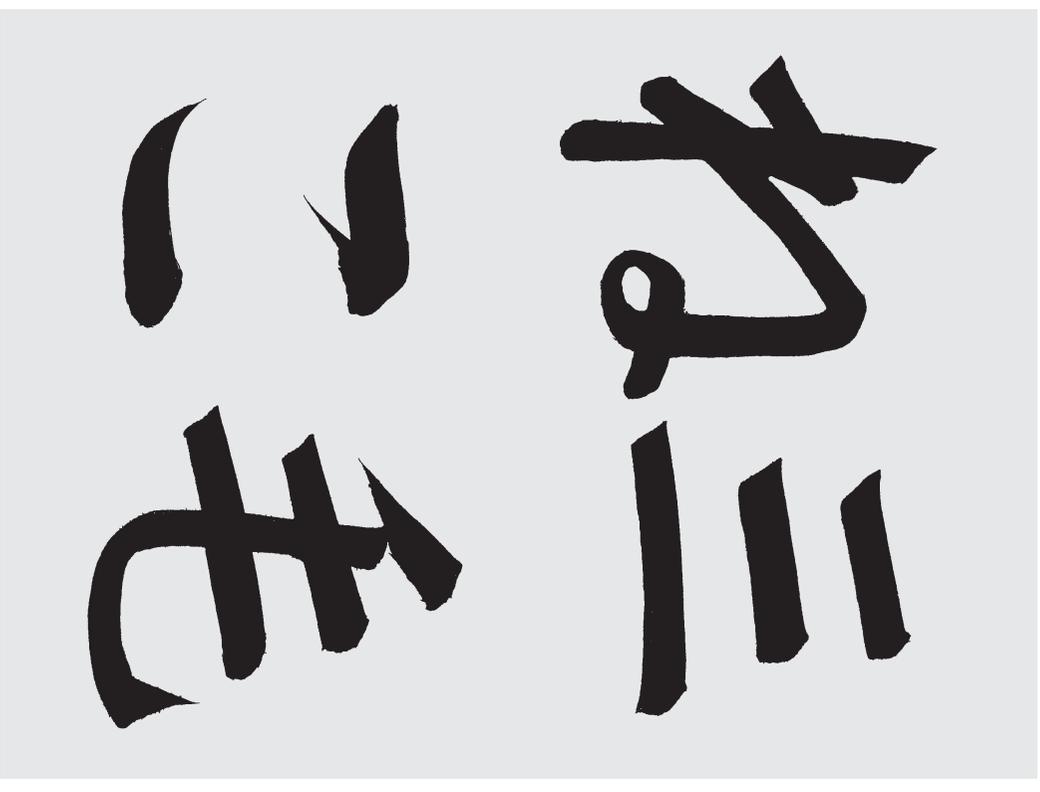
小学六年规定 【学毛】

石丸曉風先生書



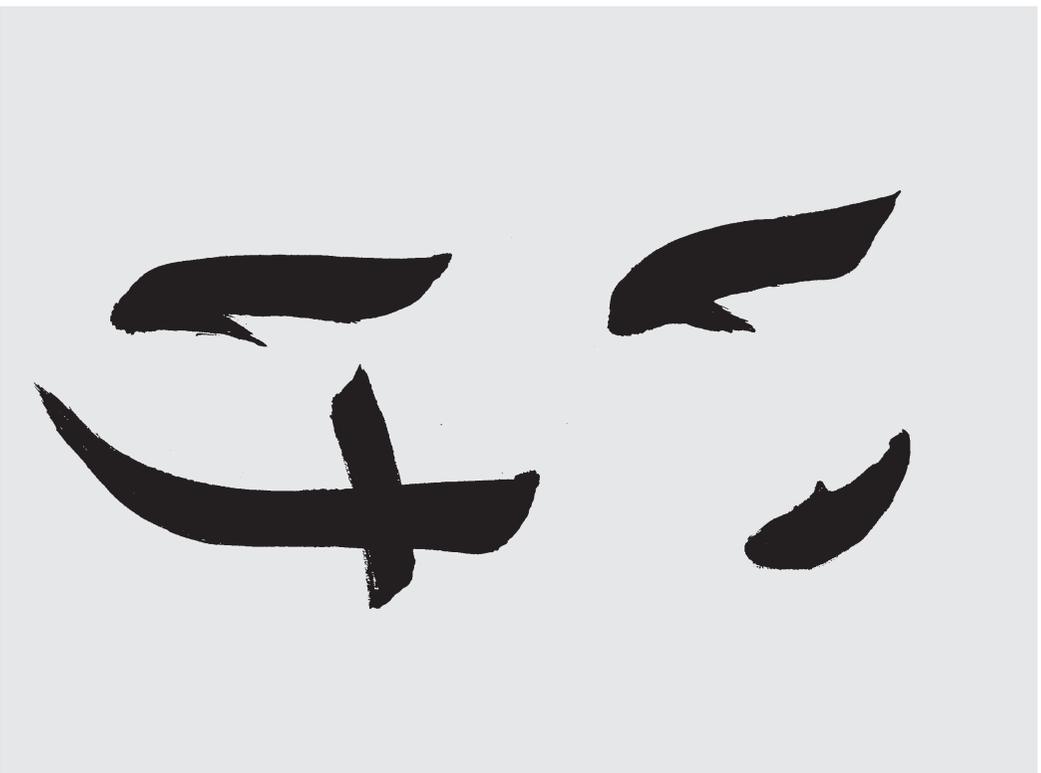
小学三年規定 【学毛】

竹内墨洋先生書



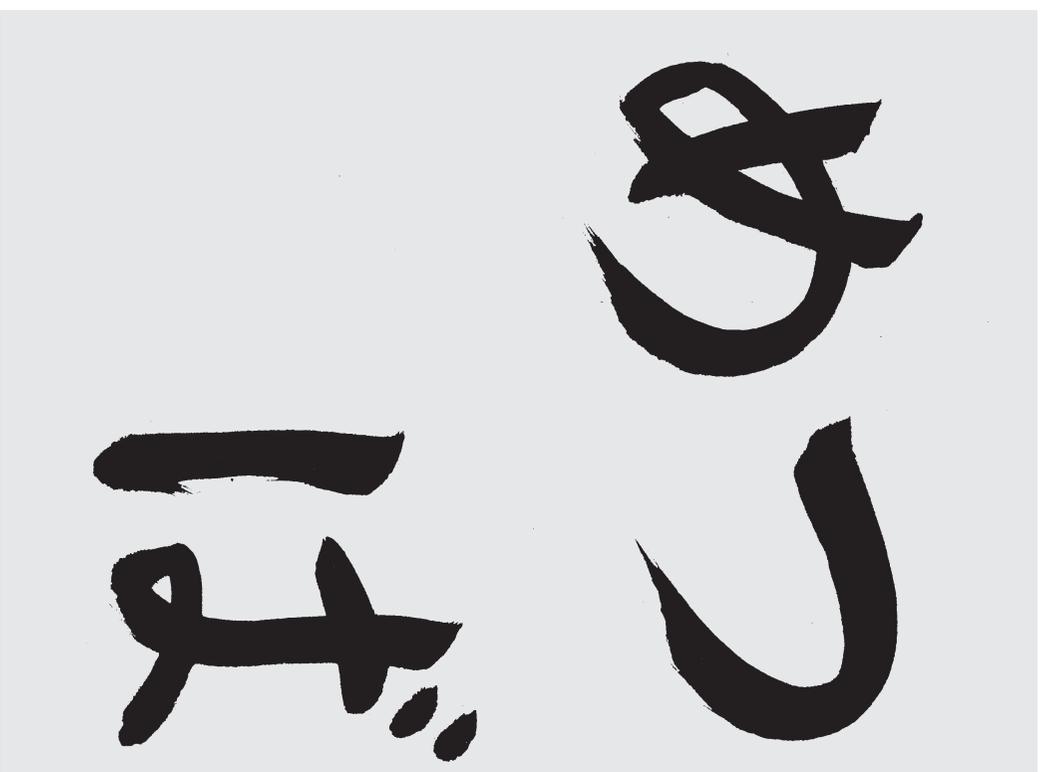
小学四年規定 【学毛】

久保妍山先生書



小学一年規定 【学毛】

柳澤玄慕先生書



小学二年規定 【学毛】

寺尾順雲先生書

硬筆規定

天衣無縫とは、詩や文章が少しの技巧もなく、自然にしかも完全であることである。

一般規定【二硬】(師範・準師範・段位)

上條 信山 先生 書

天衣無縫とは、詩や文章が少しの技巧もなく、自然にしかも完全であることである。

一般規定【一硬】(級位) (万葉集 卷第七 伊勢の従駕のうた) 内藤 望山 先生 書

おぼろみに島りあらなくに
海原のたゆたふ波に立てる
〜ら雲

中学規定【学硬】

山口 啓山 先生 書

雲間から差し込む一条の光の
輝きに言い知れぬ喜びと深い
感動を覚えた。
支部 学年
氏名

小・中学生随意課題【学随】

左の字句を半紙に書いてください。

小 一・二年 学	山	小 三・四年 学	風
小 五・六年 学	大陸	中 学	季節

表現自由。入選のみ発表します。出品券を貼付して下さい。

手本解説

基本「浩、黄河水」は左図参照。

浩、黄河水

・隸書条幅規定「低頭思故郷」は左図参照。

低頭思故郷

・仮名条幅随意「へ(遍)」「つ(徒)か(可)し」「山吹」は左図参照。

へ(遍) つ(徒)か(可)し 山吹

学生部規定

自律の精神

中学二・三年

木回馬転

中学一年

「目」は縦長の概形で横画を平行に。「律」は隣の横画の長さに留意し、ほぼ等間隔に。「精」は偏より旁がやや大きい。隣の横画は詰めて書く。「神」は偏と隣の組み立ててに気をつけ、旁を縦長に。

「回」は中の口を中央に置き中心線に対してほぼ左右対称に。「転」は偏と隣の大きさ、位置関係をよく見る。「馬」は三画目の縦画がほぼ文字の中心にくる。

朝ごはんをよくかんで食べる
と、脳の働きが活発になりね
む気がさめます。

名前

支部 年

級段

こいのぼりは風をうけて
青空をおよぎ、矢車はカラ
カラ回ります。

名前

支部 年

級段

ざ	な	大
い	さ	き
ま	ん	な
す	お	こ
	は	え
なまえ	よ	で
支部	う	、
年	ご	み
きょう		

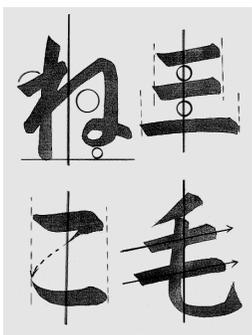
※出品券を貼付して下さい。

一般（師範・準師範・段位）・一般（級位）・中学生はペン使用のこと（中学生は鉛筆も可）。小学生は鉛筆使用のこと。
作品の大きさを下へたて18cmよこ7cm 小一・二課題↓2.1cmのマス目の紙を使用する。小三・四・五・六課題↓2.1cm巾の罫線を引く。



小学六年

「光」は一画目が文字の中心。最後の曲がりを十分に右へ張り出す。「る」は最後の結びは文字の中心に。「朝」の偏は横画を右上がりに。傍の上部はあける。



小学四年

「三」は間かくを同じにして下を最も長く。「毛」の二・三画目は右上がりに書く。曲がりは中心線よりやや左寄りに。「ね」は一画目を長めに引く。



小学二年

「つ」は少し右上がりに書き出し、文字のほぼ中心で終筆する。「ば」は縦画二本が向かいあうように。「め」は横長の円となる。腕全体で大きく筆を運ぶ。



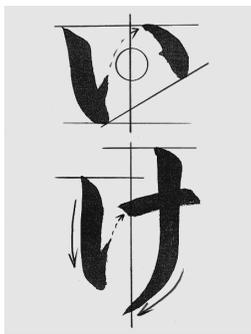
小学五年

「母」の五画目は長くし、やや右上がり。「を」は三画目の始筆を右へ張り出す。「思」は田の下部を引き締め、心を横に広めにして文字を安定させる。



小学三年

「ひ」の下部が中心より左（印）にあがり、そこで「た」ん止めて右上へ運ぶ。「だ」の二画目は、直線で力強く引く。「り」は左右にふくらみを持たせる。「手」の縦画はそり気味に書く。



小学一年

「い」は二つの画に囲まれた中の空間のとり方に気をつける。左右の画は抱え合うように。「け」は一・三画目の始筆の位置に気をつける。最後は伸び伸び払う。

楊大眼造像記

北魏 年代不詳

今月のテーマ

写実的臨書

中字（四字〜六字）

書き方

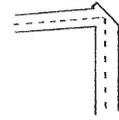
- ①文字数を間違えないで出品して下さい。
 - ②続き文字でなくてもかまいません。
 - ③落款を入れて下さい。
 - ④作品の表左下に、支部名と氏名又は号を鉛筆で記入して下さい。そして古典研究の出品券を貼付して下さい。
- （編集部）

◆解説

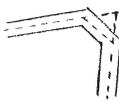
転折について

転折の書き方は独特です。初唐の転折と比較してみると、初唐の転折は横画と縦画の中心の方向が肩の中で交わりますが(図①)、造像記の転折は肩の外で交わっています(図②)。一見、関節がはずれたような書きぶり、横画から一旦筆を右斜め下にすべらせています。

①



②



(二玄社 中国法書ガイドより)



〈釈文〉

大千懷永夜之懺是以如來應群緣以顯迹像

— 信山先生の自伝 —

「硯上の塵」を読む40

芸術家として書家としての登竜門、ここに立ちはだかる大きな峠が芸術院賞である。何度も候補に上っていた信山先生の悲願達成の日がきました。

芸術院賞

昭和五十三年、私は「汲古」によって芸術院賞を頂戴した。この年は日本画の浦田正夫氏の二人という、例年になく少ない

受賞であった。私の受賞理由は次のとおり。

氏は、知性に満ちた雄勁の筆をもって、清純にして都会的な書風を創造し、隸・楷・行にわたる秀作を多く発表している。「汲古」は氏の特異な技法を發揮して、重厚にして雄渾な表現に到達した優作であると認める。

午前十時三十分、福田赳夫総理、砂田重民文相ほかの方々と共に日本芸術院において天皇陛下をお出迎え。次いで恒例により、受賞作品について陛下の御親閲を賜るため、陛下と共に作品の前に立つ。陛下の傍らには入江侍従長、芸術院第一部部长の丹羽文雄さんの顔も見える。

「これが上條です。」

北村西望先生のご案内に、

「ああそう。」

いつものように陛下がお答えになる。ところがそれで終わりではなく、思いがけなくも次々と御下問なさるのである。

「何と読むか。」

「いにしえを汲むと読みます。」

「どういう意味か。」

「論語の温故知新と同じであります。たくさんの古典を学び、それらをよく消化して、さらに新しい書を創るという意味です。」

「紙や筆、墨はどのようなものか。」

「普通の画箋紙、筆、墨であります。」

「どういうところに苦心したか。」

「自分の心を出せるようにと苦心いたしました。」

何とかお答え申し上げたものの、まったく予期せぬ御下問とあって、思わず緊張してしまった。緊張が解けたあと、静かな感動につつまれた。忘れがたいひとときであった。



陛下の御下問にお答えする上條信山先生



常任理事・審査進行 特別賞選考委員

市澤静山

第77回 謙慎書道会展

第一会場 東京都美術館

会期 三月二十日(金)～二十八日(土)

第二会場 池袋サンシャイン文化会館

会期 三月十九日(木)～二十七日(金)

副理事長 事務局長 今年度審査副主任 審査進行 特別賞選考委員

田中節山



常任理事 特別賞選考委員

内藤望山



常任理事 今年度審査員

石丸 曉風

遠望三風沙暮深不見花
岸冰梅應向柳 未歲物
若辭愁透酒頻切替衣家
閑一掃方心緒 亂如麻 曉風

常任理事 今年度審査員

久保 妍山

相送臨高墨川 原草竹物不春
飛鳥送行人 云水息獨空幽
望空泉 望空泉 望空泉
望空泉 望空泉 望空泉
望空泉 望空泉 望空泉
望空泉 望空泉 望空泉

常任理事 今年度審査員

末永 曉華

誰家玉笛暗飛聲 散入春風滿洛陽
夜中聞妙柝何人 不認 孤舟聞夜
不認 孤舟聞夜 不認 孤舟聞夜
不認 孤舟聞夜 不認 孤舟聞夜
不認 孤舟聞夜 不認 孤舟聞夜
不認 孤舟聞夜 不認 孤舟聞夜

常任理事 今年度審査員

杉山 曉雲

日本孤舟辭帝初征帆 一水遠
蓬臺以月不歸 沈碧海
白雲 雲色滿蒼梧 曉雲

常任理事 今年度審査員

竹内墨洋



常任理事 今年度審査員

寺尾碩雲



常任理事 今年度審査員

竹内藍山



常任理事 今年度審査員

西野江月



常任理事 今年度審査員

二瓶嶽風

獻歲杳杳迴風不連十日美村少明離窮巷絕人
跡控君汎扁舟茅齋破幽寂遠來見真頂疑
君志未已顧惟艱難際出愛昔有得子後日相續
難於念時古百君尚道誼臨別 增太息獨
神 云庄：空聽海雲 若 在學亦同 欣風

常任理事 今年度審査員

宮本耕成

落日隨江盡
雲帶鳥飛

常任理事 今年度審査員

柳澤玄嶽

形生勢成始末相傾流
迴以起矣激如繩回利
轉節憤舞自凝 玄嶽



第七十七回謙慎書道会展入選者発表

◇梅花賞

大島 皎山

金澤 瑤月 上條 窓苑 川島 星峰

北村 暎光 小嶋 想汀 児玉 葉雪

齊藤 祥仙 齊藤 悠花 齋藤 優月

酒井 不同 佐久間蒼峰 洪谷 静秀

清水 秀娥 鈴木 花仙 関 秀節

関口 越山 滝澤 猛 田口 雅華

竹川 小流 田中 翠花 谷川 汀楓

都竹 仙華 長田 詠李 永田 智翠

中堤 春里 布下 真静 野口 虹汀

野口 節風 野崎 珠泉 橋本 桂雪

秦 頼山 濱田 龍雲 早川 雅節

茂木 麗節 柳田 志華 山口 芳節

湯本 香窓 吉田 煌扇 渡辺 秦琴

浅井 菖風 加藤 弦宵 木村 孟心

熊坂 呉碩 近藤 静志 高橋 淡愁

田中 秀征 長島 天意 林 泰吟

松村 恭月 吉田美恵子

◇褒状

秋葉 景華 安達 暁峰 石沢 秀庭

石原 楚峰 磯崎 篁窓 岩村 耀花

牛丸 峰泉 鶴浦 湖山 衛藤 琴光

榎本 妍象 大澤 輝節 大場 香峰

大平 遊月 小倉 煌雪 小田切静唱

柿崎 詠汀 片町 光仙 加藤 静花

蒲谷 章峰 上條 哲山 久保田珠悠

小林比出代 駒屋 笙仙 齋藤 盈月

早乙女墨光 桜井 石風 佐々木芳陽

佐藤 尚山 六戸 隼山 洪谷 春意

杉崎 翠風 鈴木 峰雲 鷹谷 聡心

高橋 春仙 高橋 白羊 高見澤恒静

立花 壮山 土田 晨光 寺尾 桑花

寺本 江舟 富田 童柳 中久木陽映

中邑 弦照 野澤 高峯 長谷川竹心

濱野 清遠 林田 翠山 阪野 貴翔

福島 玲秀 前田 珠静 松井 小漱

宮坂 鐘洞 茂木 壺梗 森下 朗仙

森島 美光 森村 湖亭 矢澤 峻峯

山口 智爽 山中 孔心 山本 明光

阿相 理沙 石井 菁峰 今福 揚光

遠藤 晨翠 大高 夢宵 金子 沙泉

神谷志緒里 川田 結女 小島 華凌

笹川 静章 高谷 心蓮 虎本 溪風

西谷 風聲 畑田 穂苑 平野 壺桜

平林 静千 二木 廣山 榎本 静子

◇春興賞

小室 墨汀 鈴木 花照 竹内 青紗

原田 柳泉 吉田 節城

◇推薦顧問賞

小林 皓山

◇特選謙慎賞

朝倉 恵芳 新井 雄峰 菊池 龍節

来司 信博 桑島 秀雪 原口 華煌

牧野 蘭庭 向山 大我 山田 紫華

豊田 尚月

◇秀逸

青柳 緑水 板谷 静思 伊藤 恵佳

伊藤 西光 浦山 蒼樹 榎本 壺清

緒方 愛節 荻原 梓虹 尾崎 華馨

織戸 晨玉 春日 皓静 金坂 心快

松岡 咲憺 務台 泰煌 吉井友依子
吉田 幸奈 六川 昌幸

◇御長寿出品章

(数え歳90歳以上の出品者特別表彰)

武田 紅春 横川 景城 磯崎 篁窓
鈴木 峰雲 高橋 白羊 滝澤 猛
阪野 貴翔

◇U20出品者

(満17歳以上20歳以下の出品者)

阿相 里沙 門脇 華杏 神谷志緒里
川田 結女 小島 華凌 高橋 里奈
竹内 歩花 館野 鳳節 馬場 華楓
村本萌里季 吉井友依子 吉田美恵子
吉田 幸奈

役員出品

(○印は今年度審査員)

副理事長

田中 節山

常任理事

○石丸 晁風 市澤 静山 大澤 梢光

理事

荻田 光山 恩田 静月 ○久保 妍山
小淵 石峯 ○末永 晁華 ○杉山 晁雲
鈴木 春鳳 関 香風 高瀬 霞山
○竹内 墨洋 ○竹内 藍山 露崎 玄峯
○寺尾 碩雲 虎井 晁鐘 内藤 望山
○西野 江月 ○二瓶 嶽嵐 畑中 高山
樋口 玄山 藤澤 珠玉 藤森 大節
○宮本 耕成 ○柳澤 玄嶽 山口 啓山
渡辺 華雪

青木 雪花 青木 橙華 芦川 臨泉
畔原 小霞 有馬 花嵐 安藤 棲嶽
池上 湖心 泉澤 禾苑 一久 詠香
今井 翔山 宇野 夏夕 江上 玄光
大島 皎山 岡田 象月 岡本 秋麗
岡本 素雪 小川 仙草 笠原 泰山
金井 鐘華 蕪木 珠紅 上條 恵香
川島 映雪 北井 珠虹 北藤 煌香
木本 彩暉 小泉 壺藍 古賀 沙苑
小暮 静翠 小林 宵月 小林 鐘仙
小林 貞月 小峯 桃花 小室 墨汀
小山 春聲 齐田 昌静 酒井 英静
酒井 溪月 坂牛 静心 坂本 晁玄

佐藤 京香 渡江 岐雲 島田 壺峰
清水川蓮堤 下平 南岳 宿谷 硯心
白濱 静苑 菅野 素杏 杉山 窓影
杉山 登舟 鈴木 花照 鈴木 香扇
鈴木 春虹 鈴木 草影 鈴木 蒼舟
関澤 劔山 竹内 青紗 武田 紅春
武原 幽節 田中 紫花 田中 珠光
塚原 花瑤 塚本 皎沙 出来 華泉
遠山 天妙 都所 影花 中内 真意
仲島 秀峰 中村 秀華 中山 香月
成瀬 恵苑 西貝 雅堂 錦織 明花
橋本 幸楓 長谷川石心 浜野 史翠
原田 柳泉 針原 伯翠 日比野汀華
平岡 想花 平川 華凜 福山 京江
藤井 憬花 藤岡 月華 藤牧 峰雪
布施 杠華 古川 琇光 益田 冠山
松田 幼山 松本 小光 丸山 花雲
美斉津嶽心 三沢 泰仙 宮崎 京楓
宮田 天遥 森 晨英 柳澤 雪葉
藪内 光葉 山崎 惜春 山本 草心
結城 正憲 余語 元祥 横川 景城
横田 四葉 横田 小泉 吉田 節城
米倉 花光 南條 素琴

第77回謙慎書道会展

デモンストレーションの様相

期日 三月二十日(金)
会場 東京都美術館 第一室

東京都美術館では第七十七回謙慎書道会展の初日、午前十一時より市澤静山先生、一色白泉先生、関吾心先生の揮毫デモンストレーションが行われました。第一展示室である会場には百人近い人が集まり、デモンストレーションは張りつめた緊張の中、高木聖雨先生司会進行のもと、関先生の隷書二行作品の揮毫から始まりました。

関先生は漢詩を丁寧な書き上げた後、文字の大小や行の幅の広狭を意図的に計算し、何度も練習された秘話を披露されました。一色先生は楷書四字を全紙二枚に筆の毛をねじり割って書かれ、線質に変化を生む表現法を披露されました。

三番目は市澤静山先生の『断金契』（だんきんのちぎり）の揮毫でした。「私の作品は墨を飛ばし、毛氈を汚してしまうので、揮毫の順番が最後で良かった。また、どんな字を書こうか迷ったが、昨年の日展の作品を縦書きにして書きます。」とおっしゃってから、流れるような所作で気迫に満ちた三字をもの凄いスピードで書きあげられました。その後、質問に応じて信山流の精粹である信山流藏鋒と露鋒の書き方について、基本点画を書きながらご説明くださいました。

高木先生からの、どのような筆を使って揮毫されたのか、との問いに、大字が羊毛の長鋒一万円を使用、落款は馬の毛の筆八百円を気に入って使われていると明かされ、意外に庶民価格だったのが印象的でした。また見学者から『断金契』を信山流で書いてほしい、との声が上がリ、拍手と歓声の後に信山流をご披露くださいました。『断金契』とは、固く結ばれた友情のたとえで、大変好きな言葉だと、お稽古の折おっしゃっていました。

先生方の大字作品を具に見ることができ、筆圧のかけ方、運筆の速さ、はね、はらいの基本とともに、作



さあデモンストレーションの開始!



息遣いが会場に響く



熱のこもった作品解説

品の書き方の技術を学ぶことができ、貴重な時間を過ごすことができました。揮毫デモンストレーションを受けてから謙慎展を鑑賞すると、また違った感動に心を揺さぶられ、私にとって得難い体験となりました。

(桑島 秀雪記)



大勢の参観者

木曜会 古典臨書作品

木曜会は通常は古典研究の発表の場です。大きな展覧会出品時は作品研究です。作品づくりに古典研究なくては深化はありません。その研究成果をご覧下さい。

何紹基（清）



柳澤玄嶽

争坐位文稿（唐 顔真卿）



露崎玄峯

争坐位文稿（唐 顔真卿）



竹内墨洋

何紹基は行草書を顔真卿の争坐位稿などに求めて、変化に満ちた作風を得意としている。この作品は字間をやや詰気味にしてテンポよく書いている。自由自在の中に懐の大きさなど、氣宇雄大に表現されている。

（解説 虎井曉鐘）

氏は日頃、調和体の作品発表に苦心を続けています。漢字の表現技量とかなの表現とを調和させるのですが、特に漢字力をこの古典に求めて、豊かに、雄躍する線を得ようとしています。今回の半切一行書に見る表現には感心せざるを得ません。

（解説 田中節山）

革新書風の開祖と言われ、剛直無比の精神の持ち主。顔真卿の古典を、写實的臨書にこだわらず、あくまでも半切臨書作品の有り方を追求した一つの結果と見たい。自由かつ大胆に、そして豊かさと勁さを兼ね備えて見事に纏めあげた習作である。

（解説 二瓶嶽風）

特待生紹介

(学年は試験合格時のものです。)

特待生を取得して

正桂支部 中三

長谷川 未紀



ずっと取得したかった特待生が取得でき、とても嬉しく思うとともに、これまで習字を教えて下さった先生に感謝しています。これからも、日々精進して頑張りたいと思います。

支部長先生より一言 体が弱かった未紀さん、とても心配しましたが目標の特待生が取れてホッとしています。おめでとう！

先生へ

照澤支部 中一

小林 花織



私が特待生試験に合格して、一番喜んでくれたのは先生です。ここまで、いつも先生に背中を押されてきました。字を書く楽しさを教えてもらいました。特待生として、これからもっといい字を書きます。

支部長先生より一言 納得するまで書き込む花織さんの強い精神は、どこから生まれてくるのでしょうか。私も学びたい。

嬉しい事ばかり

千曲支部 中三

大日方 鈴菜



私は小五から書道を始めました。どんどん段が上がって、学校でも友達や先生に字をほめられて、家族にもうらやましがられたり、書道を始めたらうれしいことばかりです。これからも精進します。

支部長先生より一言 鈴菜ちゃん合格おめでとうございます。15歳の春は嬉しい事がいっぱいだね。努力で良い結果を生んだね。

念願の特待生

高社支部 中二

清水 彩未



私は小学三年生から書道を始めました。ずっと目標だった特待生になれて、とても嬉しく思っています。これも先生や家族のおかげです。ありがとうございます。

支部長先生より一言 運動部で活躍する中、ピアノと書道に励み、毎週思慮深くお稽古する姿に感心しています。おめでとう。

二冠達成

高社支部 中二

市川 結衣



ようやく、目標にしていた硬筆、毛筆での特待生合格を、果すことができました。自分に自信を与えてくれた書道に出会えたこと、本当に嬉しく思います。いつも親身に教えて下さった先生に感謝の気持ちでいっぱいです。

支部長先生より一言 二冠達成おめでとう。加えて合格作品が掲載され大変喜ばしい事です。益々自信に繋がろう祈ります。

実現した夢

名東支部 中三

林 竜矢



今回の特待生試験が最後のチャンスだったので不安でしたが、合格したと聞いた時、嬉しくてたまりませんでした。今まで練習してきた結果を出すことができました。ありがとうございます。

支部長先生より一言 小2から休まず、いつも真剣でした。学業との両立、二度目のチャレンジ。よく頑張りましたね。

日々精進

皓花支部 中二

森 航汰



習字を習い始めてから約八年が経ち、やっと合格することができました。中学生になり部活とかも忙しく大変だったけれど、三度目の正直で特待生になることができてもううれしいです。これからも頑張ります。

支部長先生より一言 悠然と書き込む姿は、後輩達への模範ですね。航汰君の向上心は嬉しくて楽しみです。おめでとう！！

特待生へ向かって

新城支部 中一

木藤 希美



上手い字が書けなくて、「やめたい」と思ったこともありました。どんな時でも、先生がほめてくれたり、アドバイスをしてくれたので、がんばって特待生になることができました。ありがとうございます。

支部長先生より一言 合格おめでとう。実直に黙々と打ち込む姿は頼しく思います。次の目標に向けて頑張ってください。

二冠達成

玄嶽支部 中三

五十嵐 夏実



硬筆に続いて、毛筆でも特待生になることができ、とても嬉しいです。最後まであきらめずに稽古を続けることができたのは、支えてくれた家族や、熱心に指導して下さいました先生ののおかげです。ありがとうございます。

支部長先生より一言 とうとう、硬筆・毛筆両方とも特待生ですね。二冠達成おめでとう！今後のご活躍に期待しています。

特待生紹介

(学年は試験合格時のものです。)

目標達成



一葉支部 中一
根岸 涼香

字が上手くなかった私が特待生に合格できたのは、部活などで遅くなっても教室を開いて待っていて下さった先生のおかげです。又、七年間続けさせてくれた両親にも感謝です。頑張って硬筆も特待生になりたいです。

支部長先生より一言 早くから目標を特待生としてましたネ。強い意志で中一で現実となりました。すばらしいですネ！

特待生になって



竹華支部 中三
秋野 裕孝

私は特待生になるためにがんばり、日常生活での字のバランスがよくなり、誤字、脱字が減りました。小二から始め、八年間色々なことがありましたが書の楽しさが少しだけわかりました。これからも精進したいです。

支部長先生より一言 最後は頑張りましたね。落ちついた態度で机に向かう姿勢は好ましいものがありました。おめでとう。

苦勞の証



中野支部 中二
湯本 瑠奈

私は、小学校低学年から習字を習い始めました。中学生になり忙しくなり練習する時間が少なかった日もありましたが、頑張って特待生をとることができたので良かったです。先生には感謝の気持ちでいっぱい입니다。

支部長先生より一言 お母さんも小学生の時に通われ、親子二代で頑張りました。更なる目標に期待しています、おめでとう。

嬉しい。



八潮支部 中三
八子 啓太郎

僕は、小学校四年生から習字を習い続けてきました。最初は全然上達しませんでした。先生のおかげでここまで来ることができました。本当にありがとうございます。これからも頑張っていきたいです。

支部長先生より一言 特待生合格おめでとう。「継続は力なり」の言葉を実践しました。次の目標に向かって頑張れ！

念願の目標達成



中野支部 中二
佐藤 未侑

私は小二から習字を始めました。普段は左利きですが習字は右で書いています。念願の特待生になることができ、とても嬉しいです。教えて下さった先生への感謝を忘れず、これからも更に上を目指し努力していきたいです。

支部長先生より一言 おめでとう未侑ちゃん。学校の副会長の立場でよく頑張りました。今後の活躍を楽しみにしています。

大好きな習字



正桂支部 中三
白浜 奎音

私は、特待生になることができ、とても嬉しいです。約九年間、習字を続けていて集中力など多くのことを身につけることができました。私は、習字が大好きなのでこれからも続けていきたいと思いました。

支部長先生より一言 可愛くて心もなかつた奎音さんが、遅くも優秀な中学生に成長しました。本当におめでとう！！

上を目指して



聖支部 中三
箕河原 美夢

なかなか部活動との両立が難しく、おけいこに参加できない日もたくさんありましたが、特待生試験に合格できて嬉しく思います。卒業後も、さらに上の段を目指し日々練習に励みたいと思います。

支部長先生より一言 高校でも書道続ける事を目標に頑張りましたね。おめでとう！書展での入賞も自信になりました。

特待生



霞墨支部 中二
石井 愛莉

前回は毛筆、今回は硬筆と、両方特待生になることができ、とても嬉しく思います。両方とも、特待生になることができたのは、いつも熱心に指導して下さいました先生方のおかげです。本当にありがとうございます。

支部長先生より一言 バレー部でセッターです。信頼もあり、リズムよく書くのは、運動神経の良さですね。二冠おめでとう。

継続は力なり



北府支部 中三
宮澤 大樹

私は小学一年生から書道を始めました。静かに字を書いてると心が落ち着きます。ご指導いただいたいる島添先生には丁寧に見ていただいたので特待生となることができました。これからも書道続けていきます。

支部長先生より一言 特待生、高校受験も志望校合格で二重におめでとう。頑張りましたね。立派です！！更なる飛躍を期待。



△隷書条幅▽ 評 宮本 耕成

恭 影 ダイナミックな書きぶりが紙面を制した。

伯 翠 墨量豊かでも重厚に書けた秀作。

賢 山 全体感、流れ、線質共に見事である。

悠 水 軽快な運筆で、波礫も伸びやかで魅力的。

壺 玉 貫通力のある見事な筆圧。全体感も良い。

霽 苑 基本に忠実に書かれており、練度の高い作。

道 幸 墨痕鮮やかで鋭いタッチで書かれている。

葉 草 やや小ぶりながら軽快な線で明るい作品。

△仮名条幅隨意▽ 評 長谷川石心

採 花 朴訥な線で大らかにまとめ上げて大佳。

泰 慧 思い切った墨色の変化で流れを見せて佳。

谿 曄 文字の大小が効果的で振幅のある秀作。

△通信条幅▽ 評 久保 妍山

和泉耀光 全体感よく出来た作。線質も切れがある。

湯本香窓 文字の大きさが適切で格調高い隷書作品。

三浦徑石 強さ、大胆さ、紙面を圧する。



基本課題

評 露崎 玄峯

秀麗 墨量豊かで、線に伸びのある秀作。
 劍山 ひきしまった形、切れ味見事。
 光紗 位置大きき良。貫通力があり明るい作品。
 霞泉 潤濁をうまく使い、後半で一気に伸びた。

研究課題

評 寺尾 碩雲

花仙 線に張りりと強さを見せて重厚に書いた。
 小琇 滲みの効果が適切で伸びやかな線質大佳。
 清香 沈着な線質に充実した左はらいが見事。
 秀峰 颯爽とした軽快な動きと素直な線大佳。

古典研究

評 二瓶 嶽風

霞菖 厳しい線で力強さを前面に打ち出して佳。
 成苑 長い線が効果的で紙面を支配して見事。
 太一 大小長短をつけて良くまとめあげた秀作。
 硯心 がっちり揺るぎない線で生彩ある作。

師範部

〈楷書〉

評 荻田 光山

素州 布置はもとより、線質、落ち着き共大佳。
 望春 線に強さがあり、緊張感が心地よい。
 玄華 墨の含み方がよく、全体に味わいあり。
 陶華 素直な書きぶりの中に意思を感じる作。
 採舟 線に伸びがあり、特に横画が印象的。
 康絹 線質の厳しさの中に、優しさと甘さあり。
 孝子 縦の流れに一貫性があり、堂々とした作。
 秀庭 コンパクトによくまとまって秀逸な作。



貞 松 文字の形に対する意識を感じる佳作。

楓 花 紙面いっぱい伸びやかに書けた作。

舞 まじめな学書の姿勢がにじみ出ている作。

笑実子 起終筆がしっかりしており、大変印象的。

翠 雅 バランスのとれた作で、さわやか。

楊 舟 重厚で、一点一画をおろそかにしない作。

静 志 字形に、文字のセンスを感じる作。

翠 法 墨の含みが大変よく、レベルの高い秀作。

△仮名▽ 評樋口玄山

緑 水 黒と白のバランス、余白の美しさ大佳。

湖 亭 渴筆部の太さは練度の深さの成果。

小 琴 豊かさ、温かさ、ツヤのある線。

英 葉 大きな腕の動きが線の伸びやかさを生む。

草 竹 遅速緩急、自然な変化が魅力。

冠 泉 聲の最終画、焦点にふさわしい切れ味。

洋 楓 行間の響きの明かるさが印象的。

玉 翠 墨色、潤濁の変化が美しい。

芋 里 太さを失わない安定した運筆がよい。

翠 花 筆の開閉にリズムミカルな変化あり。

蓉 光 漢字と仮名をうまく調和させている。

芳 子 息の長い線は執筆の確かさによる。

<p>中三 泉さらら</p> <p>過程</p>	<p>二年 あられ</p> <p>生きる</p>	<p>小四 矢野ことり</p> <p>お昼休み</p>	<p>小六 藤澤こと菜</p> <p>現代社会</p>	<p>中二 志</p> <p>人生感 意気</p>
<p>小六 堀内彩音</p> <p>結果</p>	<p>二年 龍之介</p> <p>生きる</p>	<p>四年 青山 穂香</p> <p>お昼休み</p>	<p>小六 美来</p> <p>現代社会</p>	<p>中三 鈴菜</p> <p>人生感 意気</p>
<p>四年 庄村弘美</p> <p>題</p>	<p>小一 白井あやめ</p> <p>はな</p>	<p>小三 吉川らん</p> <p>思いやり</p>	<p>小五 吉柳佑奈</p> <p>切手集め</p>	<p>中一 橋本 望美</p> <p>豊かな知識</p>
<p>小二 うすい 香花</p> <p>字</p>	<p>小一 りお</p> <p>はな</p>	<p>小三 宮本俐沙</p> <p>思いやり</p>	<p>小五 横澤未悠</p> <p>切手集め</p>	<p>美菜 中一 津六 華音</p> <p>豊かな知識</p>

学生部

評 二瓶 嶽風

鈴木 恋 心をこめて真面目に確実に書いて良い。
鈴 菜 ふっくらした線で温かさを感じる作。

橋本望美 注意深くていねいに書いて好感が持てる。
池田華音 気持を切らさずに最後まで書き上げた。

こと葉 どこまでも力を抜かない集中力はみごと。
美 来 始筆、終筆が正確で基本の身に着いた作。

青柳佑奈 ゆっくりとした筆はこびであたかいた作。
横澤未悠 一点一画しっかりと書いた明るい作品。

ことり 一生けんめいていねいさを心がけてよい。
青山穂香 たしかな筆で書いてきりりとした作品。

吉川らん 形よく、位置よくすっきりと書いた。
宮本俐沙 のびのびとした線で書けていて気持ち良い。

あられ 太さ、形ともによくどうとうとした作。
龍之介 大きく元気よくのびのびと書けました。

あやめ 心をこめてしっかりと書きかけました。
寺原莉央 正しいかたちでしっかりと書いてみごと。

半紙 随意

評 西野 江月

さらら 伸びやかな線質で形の整った堂々たる作。

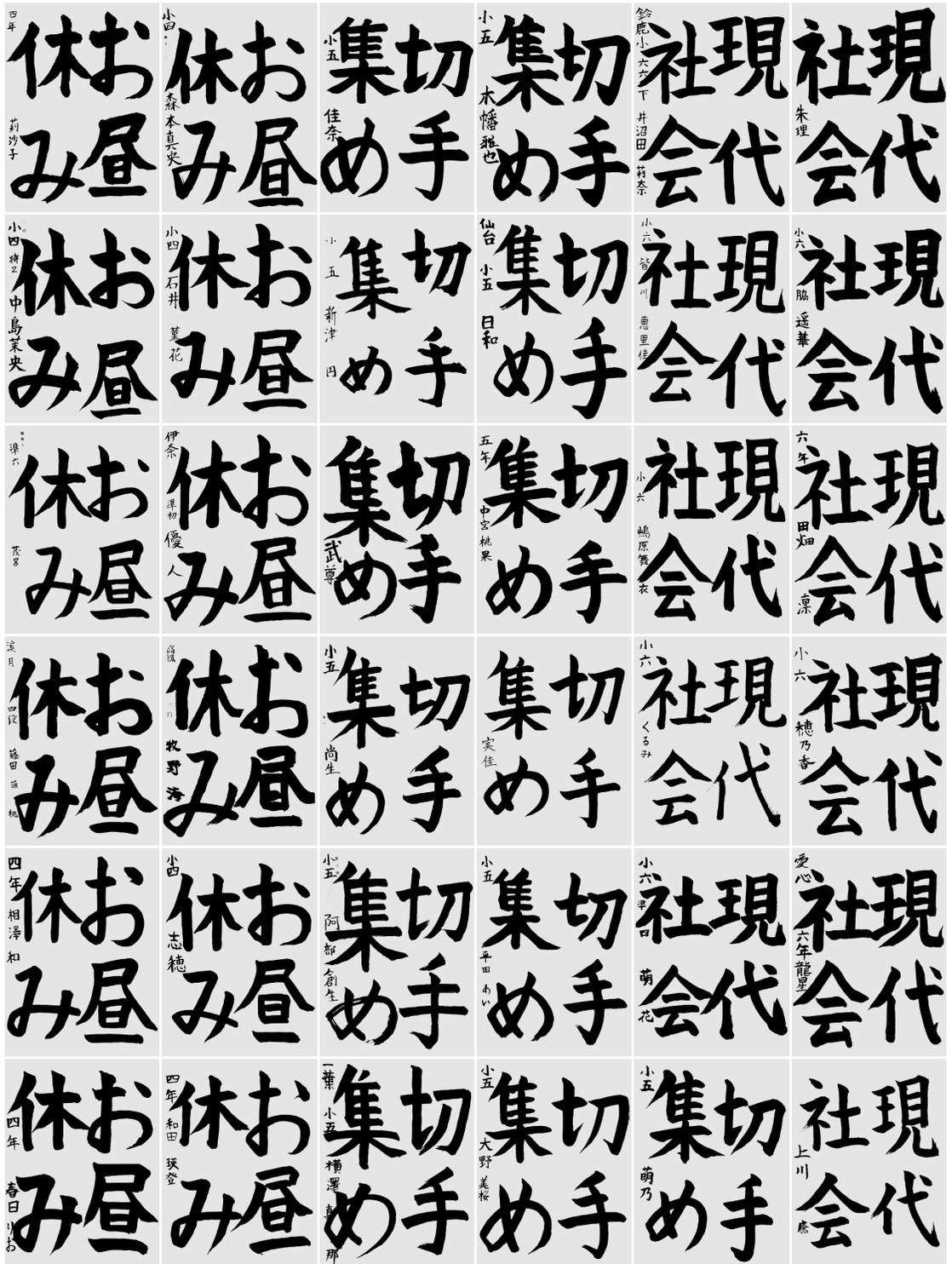
彩 音 筆づかいよく、キリッと引きしまった。
弘 美 一点一画をていねいに形よく書けました。

香 花 「とめ」もしっかりして、力づよい字。

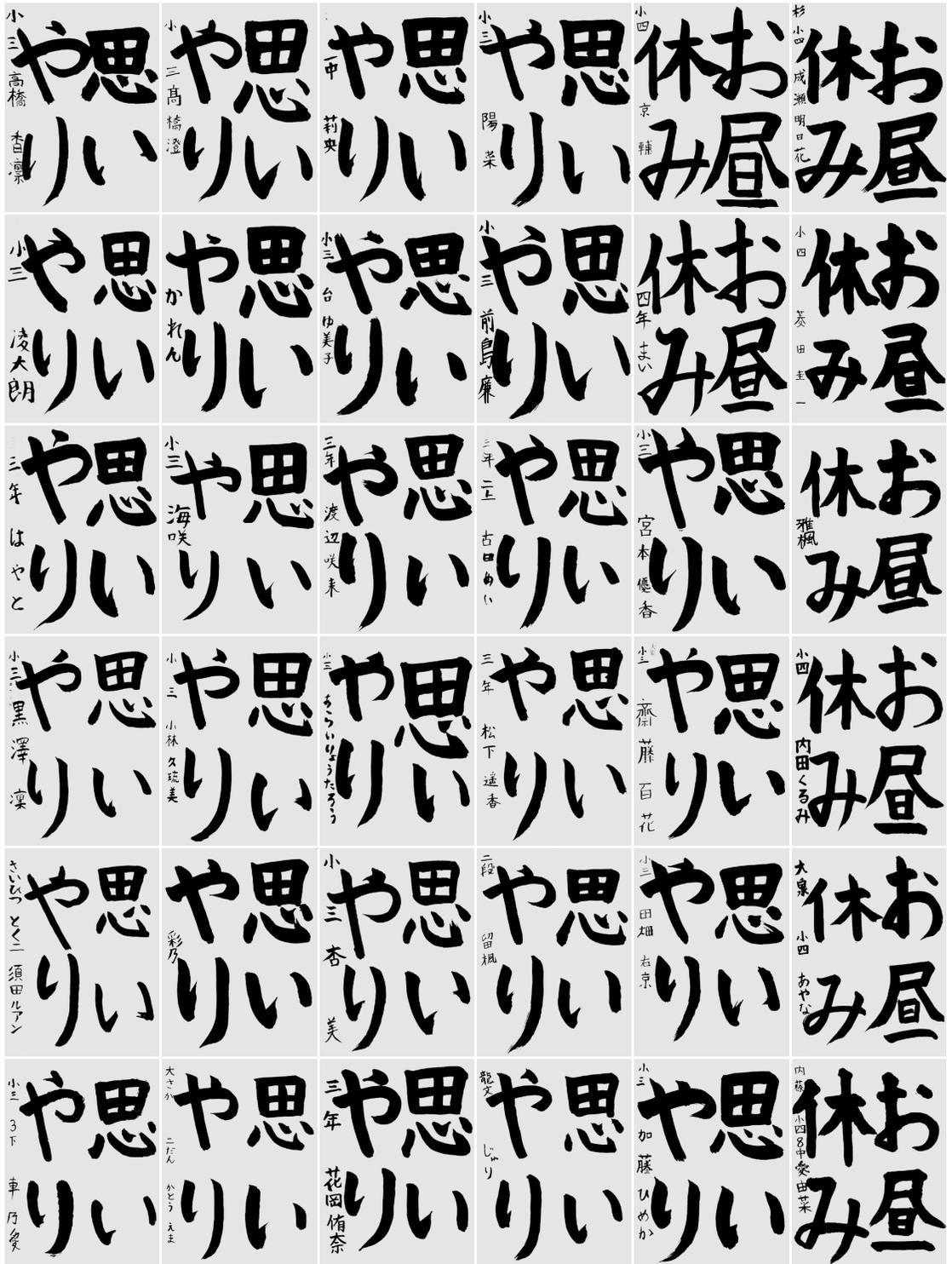
このページに掲載された人には書家会より記念の筆をさし上げます。

<small>小六</small> 現代 社会 <small>里彩子</small>	<small>小六</small> 現代 社会 <small>深野香花</small>	<small>中一</small> 知識 <small>澤六段 大石優里香</small>	豊かな 豊かな <small>中二</small> 意気 <small>水野彩音</small>	人生感 人生感 <small>中二</small> 意気 <small>山内 萃楠</small>	<small>中二</small> 意気 <small>小森 朱里</small>
<small>小六</small> 現代 社会 <small>和 貴</small>	<small>小六</small> 現代 社会 <small>上田 敬太郎</small>	<small>中一</small> 知識 <small>美成</small>	<small>中三</small> 意気 <small>新井 小林美雅</small>	人生感 人生感 <small>中三</small> 意気 <small>彩夏</small>	<small>中三</small> 意気 <small>彩夏</small>
<small>小六</small> 現代 社会 <small>伊藤 桃香</small>	<small>小六</small> 現代 社会 <small>段脇 田彩響</small>	<small>中一</small> 知識 <small>鳥内里菜</small>	<small>中一</small> 知識 <small>李光 中一 七段 真知</small>	豊かな 豊かな <small>中二</small> 意気 <small>石井 愛莉</small>	<small>中二</small> 意気 <small>大塔なつき</small>
<small>小六</small> 現代 社会 <small>大久保 葉菜</small>	<small>小六</small> 現代 社会 <small>陽菜</small>	<small>中一</small> 知識 <small>みのり</small>	<small>中一</small> 知識 <small>船橋 中一 特ノ宮 永千晴</small>	人生感 人生感 <small>中二</small> 意気 <small>聖 中三 特ノ宮 下美羽</small>	<small>上尾 中二 七段</small> 意気 <small>楓子</small>
<small>小六</small> 現代 社会 <small>陽奈</small>	<small>六年</small> 現代 社会 <small>花帆</small>	<small>中一</small> 知識 <small>土橋 彩奈</small>	<small>中一</small> 知識 <small>一笑</small>	豊かな 豊かな <small>中一</small> 意気 <small>有虹 中三 高津真衣子</small>	人生感 人生感 <small>秀隆</small>
<small>小六</small> 現代 社会 <small>正盛 香奈実</small>	<small>小六</small> 現代 社会 <small>柳沼 菜摘</small>	<small>中一</small> 知識 <small>桂川 晴花</small>	<small>中一</small> 知識 <small>森田 美紀</small>	豊かな 豊かな <small>中二</small> 意気 <small>中二 七段 末田 椋子</small>	人生感 人生感 <small>中三</small> 意気 <small>愛梨</small>

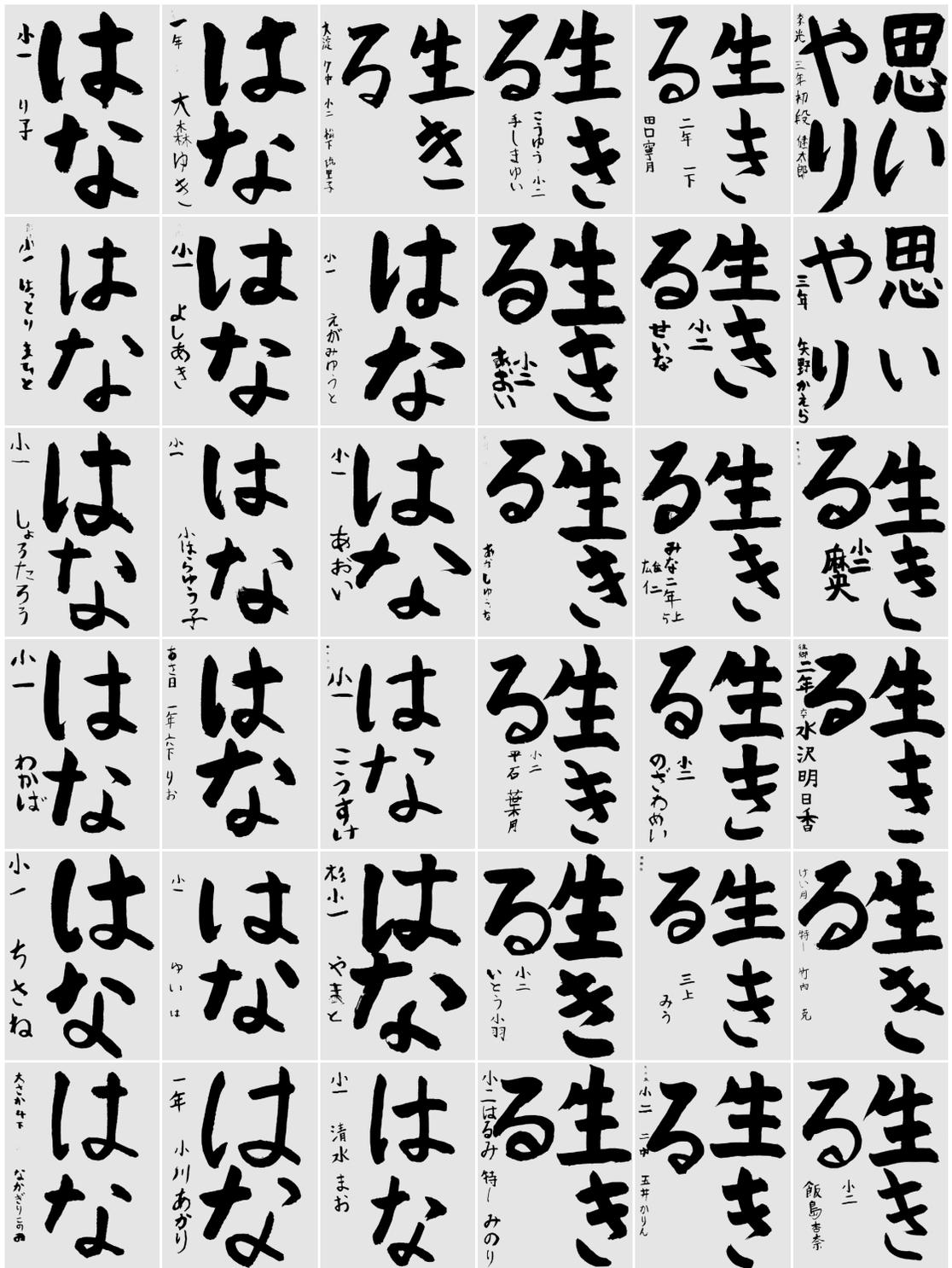
- 〔毛筆〕
- 〔中二・三〕 美墨 小森 朱里 凛心 丸磬 彩夏 華雪 大塔なつき 上尾 竹村 楓子 玄樸 関 秀隆 北府 平田 菜摘 和 山内 愛梨 花蓮 大和田健樹 霞墨 石井 愛莉 聖 宮下 美羽 有虹 高津真衣子 名東 末田 椋子 水代 小野 彩音 美五 小林 美雅 〔中一〕 李光 園 真知 船橋 富永 千晴 珠紅 松原 一実 華雪 森田 美紀 小光 大石優里香 富士 玉木 美成 中嶋 島内 里菜 山愛 丸山みのり 秀雪 土橋 彩奈 志摩 桂川 晴花
- 〔小六〕 八潮 雅彩 城彩 土華 北府 光丘 竹華 宮地 サン 名東 高社 華雪 〔小六〕 深野 春花 上田 敬太郎 脇田 彩響 杉本 陽菜 渡辺 花帆 柳沼 菜摘 岩居 里彩子 井副 和貴 伊藤 桃香 飯島 陽奈 正盛 香奈実



龍文 田沼 朱理
 有象 脇 遥華
 大田 畑 凛
 玄嶽 永沼 穂乃香
 愛心 大賀 龍星
 芙一 上川 廉
 鈴鹿 井沼 田莉奈
 若竹 皆川 恵里佳
 りん 嶋原 舞衣
 大月 くるみ
 稲田 萌花
 綾華 穂田 萌花
 光丘 真嶋 萌乃
 霞墨 木幡 雅也
 仙台 佐々木 日和
 シー 中宮 桃果
 若松 川島 実佳
 倭松 平田 あい
 秀雪 大野 美桜
 有穂 北島 佳奈
 柏心 新津 円
 静 山田 武尊
 華雪 平山 尚生
 華月 阿部 創生
 一葉 横澤 真那
 華雪 森本 真央
 伊喜 石井 蓮花
 久奈 島田 優人
 高風 牧野 海
 光丘 岩田 志穂
 シー 和田 瑛登
 黄華 田山 莉沙子
 暁華 中島 茉央
 芙二 茂呂 果恋
 溪月 藤田 萌桃
 大田 相澤 和
 湊 春日 莉緒



- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----|-------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|----|-----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|----|----|----|-----|----|----|----|-----|----|----|-----|
| 宝春 | 彩筆 | 華雪 | 書之 | 蓮田 | 照澤 | 大阪 | 成城 | 若竹 | 若郷 | 松戸 | 虹苑 | 湊 | 有虹 | 新城 | 平成 | 有家 | 石峯 | 龍文 | 峰 | 美苑 | 皓花 | 中央 | たけ | 須坂 | 若宮 | 大家 | 練馬 | 山愛 | 秀雪 | 内藤 | 大泉 | 茅野 | 玄樸 | 長寿 | 杉 |
| 車 | 須田ルアン | 黒澤 | 永峰 | 井上 | 高橋 | 加藤 | 中島 | 小林 | 齊藤 | 竹島 | 高橋 | 花岡 | 時田 | 荒井 | 渡辺 | 台 | 瓜生 | 鈴木 | 大川 | 松下 | 古田 | 前島 | 三井 | 加藤 | 田畑 | 齋藤 | 宮本 | 長谷川 | 渡辺 | 重原 | 内田 | 北川 | 菱田 | 成瀬 | |
| 乃愛 | ルアン | 凍 | 勇斗 | 大朗 | 香凜 | 江真 | 彩乃 | 久美 | 海咲 | 華恋 | 澄 | 侑奈 | 杏美 | 遠太郎 | 咲来 | 優美子 | 莉央 | 授理 | 留楓 | 遥香 | 芽衣 | 陽菜 | ひめか | ひめか | 右京 | 百花 | 優香 | 舞 | 京輔 | 由菜 | 彩奈 | くるみ | 雅楓 | 圭一 | 明日花 |



- | | | | |
|------|-------|----|-------|
| 源創 | 鎌田健太郎 | 李光 | 矢野佳恵良 |
| 【小二】 | 鳴原 麻央 | 華雪 | 水澤明日香 |
| 往郷 | 竹内 克 | 溪月 | 飯島 杏奈 |
| 皓花 | 田口 寧月 | 有穂 | 原田 惺梨 |
| 美菜 | 土井 雄仁 | 硯扇 | 野澤 明愛 |
| 美二 | 守 美羽 | 美五 | 玉井 香凜 |
| 虹友 | 手島 由結 | 一絵 | 佐藤 悠那 |
| 松聲 | 明石 悠那 | 平石 | 葉月 |
| 伊藤 | 葉月 | ひま | 内藤みのり |
| 晴美 | 松下琉里子 | 大淀 | 【小一】 |
| 【小一】 | 江上 優音 | 土筆 | 鈴島 葵 |
| たけ | 幸助 | 華雪 | 平塚 大翔 |
| 杉 | 奥田 麻央 | 高社 | 清水 ゆき |
| 杉月 | 大森 ゆき | 有穂 | 松島 慶明 |
| 青雲 | 小原 優子 | 朝日 | 田中 里桜 |
| 純心 | 島貫 結葉 | 神奈 | 前田 明璃 |
| 月山 | 服部 莉子 | 飯山 | 大隅捷太郎 |
| 瑞祥 | 藤木 若葉 | 中野 | 小林千咲音 |
| 茜 | 中桐このみ | 大阪 | |

らよそ人間を救済するものか三つ程
一は文字であり、一は芸術であり
一は宗教と云うてあろう、小沢

日本の学校では子供が自分達の
教室を掃除します。その姿は世界
に誇れる教育です。
瑞穂三特時
高村美月

二つ以上の言葉が結び付いて、
新たな言葉になったものを複
合語といいます。
有象 大津正
前尾野 莉有

二つ以上の言葉が結び付いて
新たな言葉になったものを複
合語といいます。
一繪 五津三
前鈴木麻理奈

私たちの町のことを近く
の図書館で調べて文章に
まとめました。
中央 四
前奥山ななみ

私たちの町のことを近く
の図書館で調べて文章に
まとめました。
明 四
前加とう 桃香

春の雨がやさしく
花びらをぬらし
すてきた。

らよそ人間を救済するものか三つ程
一は文字であり、一は芸術であり
一は宗教と云うてあろう、以良秀忠

日本の学校では子供が自分達の
教室を掃除します。その姿は世界
に誇れる教育です。
深心 中三 六段
大塚実咲

二つ以上の言葉が結び付いて、
新たな言葉になったものを複
合語といいます。
大塚 五
前水野菜音

二つ以上の言葉が結び付いて
新たな言葉になったものを複
合語といいます。
若松 六
前加藤 希保

私たちの町の町のことを近く
の図書館で調べて文章に
まとめました。
日 二
前みくり

春の雨がやさしく
花びらをぬらし
すてきた。

春の雨がやさしく
花びらをぬらし
すてきた。

ねば玉の鞭の更けの川ばら久
木を少く隔てて河原に千鳥
ば鳴く 遊星 娘 逸美子

二つ以上の言葉が結び付いて、
新たな言葉になったものを複
合語といいます。
天然 五
前廣田あかり

二つ以上の言葉が結び付いて、
新たな言葉になったものを複
合語といいます。
徳文 六 進五
前菊地 幸乃

私たちの町の町のことを近く
の図書館で調べて文章に
まとめました。
雅 四
前山口花音

私たちの町の町のことを近く
の図書館で調べて文章に
まとめました。
介 三
前山崎歌音

春の雨がやさしく
花びらをぬらし
すてきた。

春の雨がやさしく
花びらをぬらし
すてきた。

日本の学校では子供が自分達の
教室を掃除します。その姿は世界
に誇れる教育です。
華雪支部 中三特待
松井 佑菜

二つ以上の言葉が結び付いて、
新たな言葉になったものを複
合語といいます。
本種 五 進四
前浅野 穂子

二つ以上の言葉が結び付いて、
新たな言葉になったものを複
合語といいます。
若山 五 進三
前小池 耀晟

私たちの町の町のことを近く
の図書館で調べて文章に
まとめました。
静 四
前戸田 陽菜

〔硬筆〕

〔一般〕

巍山 安祿 小映

秀雪 似田貝秀悠

游墨 赤井恵美子

華雪 松井 佑菜

瑞祥 高村 美月

凜心 大塚 実咲

〔小五・六〕

玄黙 廣田あかり

有家 浅野 揺子

大象 尾野 莉有

龍文 水野 菜音

菊地 幸乃

〔小三・四〕

若山 小池 耀晟

一繪 鈴木麻理奈

若松 加藤 希保

雅 山口 花音

静翠 戸田 陽菜

中央 奥山ななみ

石峯 前田実紅里

霞墨 山崎 歌音

月 加藤 桃香

〔小一・二〕

サン 松尾 知聖

たけ 古谷 美桜

右文 梶原 彩叶

山愛 森田 心

大田 近藤帆波美

Main table containing names of members and their corresponding grades/levels. The table is organized into columns and rows, with a central section for '小・中学校の部' (Elementary and Junior High School Department) and '愛心支部' (Aikoin Branch). It lists names like 大野, 中野, 高野, etc., and their progression through various levels.

□は写真版(昇級しない) ○は昇級(1階級昇級する) ☆は秀作(同段位で二回とると昇級する。ただし師範部は除く。)

Main table containing names, grades, and affiliations for various groups. The table is organized into columns and rows, with names written in kanji and grades indicated by numbers and symbols. Affiliations are listed at the bottom of each column.

支部別の発表です。個人出品は「その他」として巻末にあります。

Table with 10 columns and 20 rows of names and grades. Columns represent different groups or regions, and rows represent individual members with their respective grades and names.

支部別の発表です。個人出品は「その他」として巻末にあります。

Table with 10 columns and 20 rows of names and symbols. Includes various symbols like stars, circles, and triangles, and labels like '有象虹支部' and '龍文支部'.

支部別の発表です。個人出品は「その他」として巻末にあります。

書象通信指導規定

書象誌会員は次の規定により、通信指導を受けることができます。
 一、指導内容 毎月の本誌競書課題、その他古典学習
 一、申し込み方法 下記のとおり、先生に直接申し込む。
 (返信用封筒を切手貼付の上、同封する。)

※通信指導費改定

手本料	一、〇〇〇円
半紙一体	一、〇〇〇円
条幅一体	三、〇〇〇円
添削料	一、〇〇〇円
一体につき	一、〇〇〇円

一、指導の先生

- 荒木 扁舟 千 990-0021 山形市小白川町四一〇一〇一四
- 石丸 曉風 千 242-0026 大和市長草柳二二二一四〇
- 市澤 静山 千 359-0046 所沢市北所沢町三三二四一
- 魚住 御山 千 651-1213 神戸市北区広陵町五一八二二
- 大澤 梢光 千 376-0013 桐生市広沢町七一六一四
- 荻田 光山 千 330-0852 さいたま市大宮大成町一四二九四
- 片倉 天風 千 238-0022 横須賀市公郷町三一〇五一二
- 久保 妍山 千 180-0023 武蔵野市境南町五一八一九
- 小 瀨 石 峯 千 353-0006 志木市館二一八一六三〇八
- 杉 山 曉雲 千 166-0001 杉並区阿佐谷北四一七二五
- 高 瀬 霞山 千 315-0053 かすみがうら市稲吉東四一〇一七
- 高 田 墨山 千 151-0053 渋谷区代々木二四二二二三二四
- 竹 内 墨洋 千 386-0005 上田市古里一五三九一九一〇一
- 田 中 節山 千 180-0006 武蔵野市中町二二二一四
- 露 崎 玄峯 千 124-0001 葛飾区小菅四一〇一〇一八〇三
- 寺 尾 碩雲 千 384-2101 佐久市桑山二二三六
- 虎 井 曉鐘 千 384-0032 小諸市古城三一〇一八
- 内 藤 望山 千 185-0003 国分寺市戸倉二二三〇一
- 中 村 巍山 千 351-0022 朝霞市東弁財三一五一二
- 永 島 玄谷 千 399-6203 木曽郡木祖村小木曾一五九七三
- 西 野 江月 千 192-0081 八王子市横山町二四一
- 二 瓶 嶽風 千 180-0006 武蔵野市中町二二三一一
- 畑 中 高山 千 913-0048 坂井市三国町緑ヶ丘二二一六〇
- 樋 口 玄山 千 183-0053 府中市天神町二二二二四
- 藤 岡 月華 千 187-0041 小平市美園町三一六一三
- 宮 本 耕成 千 180-0001 武蔵野市吉祥寺町二五二九一〇八
- 柳 澤 玄嶽 千 355-0322 比企郡小川町東小川六一九一四
- 山 口 啓山 千 152-0023 目黒区八雲二二三一一三

書象会便り

◆第77回謙慎書道会展入賞者発表

三月五日から七日まで標記展公募、評議員の鑑別審査が東京都美術館で開催され、推薦顧問賞、特選謙慎賞、秀逸、褒状等多数の入選者を得ました。また九日の大賞選考会では、理事の中から厳しい審査を経て、本会からは梅花賞に一名、春興賞に五名が選ばれました。受賞者は本誌22、23頁に掲載いたしました。

◆第77回謙慎書道会展表彰式・祝賀懇親会

三月二十二日正午から標記表彰式、祝賀懇親会がザ・プリンスパークタワー東京において開催されました。一〇六〇名が出席し、厳粛な式典と楽しい祝賀会の一時を過ごしました。

とりわけ御長壽出品の皆様は丁寧な紹介があり、本会から理事の武田紅春様、評議員の磯崎篁窓様、高橋白羊様が出席され、壇上で表彰されました。

◆第54回書象展添削会及び最終選考会

標記の添削会が、去る三月十五日、二十九日の両日に武蔵野スイングホールで開催されました。早朝より、各支部毎にまとめられた作品について、講師の先生方の丁寧かつ熱心な批評と添削指導が行われました。また標記

の最終選考会が、去る四月五日(日)に武蔵野プレイスで開催され、出品手続を完了しました。

◆第31回成田山全国競書大会

標記コンクールに多数応募いただき、活発な競書大会となりました。二月十一日に行われた全国各地審査、三月八日の中央審査を経て、十五名の中国派遣児童が選出されました。各支部への賞状賞品は四月下旬に送付されます。授賞式は四月四日(日)成田山新勝寺で行われました。

《書展予告》

- ☆第38回謙慎書道会東部展 会期 五月十五日(金)〜十七日(日) 会場 山形美術館
- ☆第16回杉並書道人協会展 会期 四月十八日(土)〜二十一日(火) 会場 セシオン杉並 (地下鉄丸ノ内線東高円寺徒歩7分)
- 出品者 杉山曉雲 古賀沙苑 杉山窓影 (本会関係)

☆第10回記念滋賀書作家協会会員展

- 会期 四月二十三日(木)〜二十六日(日) 会場 大津市歴史博物館
- 出品者 武原幽節(本会関係)

昇段級試験 師範昇格試験 要項 特待生試験

左記の要項にもとづき昇段級試験並びに師範昇格試験、特待生試験を行います。ふるって力作を御出品ください。

昇段級試験

出品規定

- 小・中学生
五月号の毛筆規定
五月号の硬筆規定
- 一般
四月号の漢字条幅規定
五月号の隸書条幅規定
五月号の楷書臨書規定
四月号の行書臨書規定
五月号のかな規定
五月号の硬筆規定

出品料

- 小 学 生 一 点 につき 五〇〇円
- 中 学 生 一 点 につき 五〇〇円
- 一 般 一 点 につき 一〇〇〇円

特待生試験

出品資格

- 小・中学生で現在準八段の者
- 小・中学生は昇段級試験と同じ(級位用)

出品料

- 小 学 生 一 点 につき 五〇〇円
- 中 学 生 一 点 につき 五〇〇円

師範昇格試験

出品資格

準師範試験 一般部で準五段・五段の者
師範試験 準師範の者

出品規定

昇段級試験の一般部規定に同じ
一体につき

出品料

☆準師範試験 四〇〇円
☆師 範 五〇〇円

☆師 範

出品の手続き

- 1 左記形式の出品目録正副二枚に必要事項を記入して、作品と共に提出して下さい。
 - 2 返信封筒を添えること。(小さい封筒は不可、長3が良い)
(住所、氏名を明記、八二円切手貼付)
 - 3 段級位の認定証は一部三〇〇円です。認定証の要のみ記入し、「要」の場合は出品料の欄に加算して下さい。(個人で認定証を申込み時は返信切手一四〇円を同封し、返信用封筒は不要)
 - 4 師範の認定証は八月号発表後に申し込んで下さい。
 - 5 為替・振込にての送金は御遠慮下さい。
- ☆出品料が千円以下の場合も切手でも結構です。

学 生 区 別	各 体 区 分 氏 名	名	出 品 料 額	鑑 査 料	郵 送 料	出 品 料
一 般						
小 学 生						
中 学 生						
一 般						
計						

出品目録
出品氏名
文部所在地
文部氏名
TEL
住所
台計

締切日

五月二十一日(木) (厳守願います)

発表

出品者あて成績通知をもって発表にかえさせていただきます。
師範試験及び特待生試験の合格者は八月号誌上に発表の予定。
180-0001 東京都武蔵野市吉祥寺北町四一三六 上條方

出品先

書 象 会 藤 森 大 節 あ て
http://www.shoshou.com
定価六〇〇円 送料別途



張廉卿陵园完成記念DVD (カラー全50分)

師生四代 友好の陵园

いま、上條信山先生の
すべてが甦る!

- 製作 有限会社 書象
- 脚本・構成 魚住卿山
- 題字 田中節山
- 定価 1,500円 (消費税・送料込み)
- 申し込み先 書象会事務局

待望の
復刻

2001年3月28日、中国湖北省鄂州市に建設中の張廉卿陵园が完成し、書象会員参列のもとに記念式典がおごそかに催された。本巻はこの陵园の完成を記念して、張廉卿、宮島詠士、上條信山、さらに書象会員の師生四代を巡る情誼を描き、信山芸術の真価を伝える感動の記録である。

氏名

発行人 (有) 書 象
代表 上 條 貞 子
東京都武蔵野市吉祥寺北町四一三六
郵便番号180-0001 電話〇四三(五三)九七四三
振替口座 〇〇一九〇一七一二五六九一
振替名義 (有) 書 象
印刷所 株式会社 リンクス 象